



一本松駅南側



## これまでの一般質問 事項の進捗状況

杉田 恭之 議員



## 南口改札の暫定開口を進める

- 質問一** 都市計画道路「鶴ヶ島日高線」の延伸について。
- ア** 町屋地区の排水対策と道路の整備について。
- イ** 埼玉医科大学国際医療センターへのアクセス道路の認識は。
- 二** 東武越生線一本松駅の橋上化南口改札開口とバリアフリー化について。
- 三** スマートフォン・ネット依存の防止策について。
- 答弁一（市長）** 整備時期は、現時点では未定の状況である。
- ア** 平成15年度の排水路改修工事で一定の効果があった。下流の坂戸市の水路改修と町屋地内の大型側溝の延長の早期実施に向け、坂戸市との調整を行っていく。
- イ** 日高市内の都市計画道路とともに整備できれば、非常に有力な

- アクセスの経路となると考える。
- 二** 橋上駅舎化が実現するまでの暫定的措置として、南口駅前交通広場の整備及び駅のバリアフリー整備と一体的な南口改札の開口を東武鉄道と交渉する。
- 三** 各学校に児童生徒の利用状況の把握を行うこと、家庭でのルールづくりの大切さを伝えることなどを指示している。今後はさらに、ネット依存の相談が受けられる教育相談体制の整備を図る。



## 認知症支援について

松尾 孝彦 議員



## 坂戸鶴ヶ島医師会と連携し、 取り組む

新聞社が実施した認知症に関する全国世論調査で、認知症になったら自宅で暮らせるとは思わないと考えている人が76%に上ることがわかった。予備軍も含めて全国で800万人程度とされている。

認知症高齢者の早期発見、早期治療の取り組みを強化していただ

きたい。

**質問一** 認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）の進捗状況について。

**二** 現状と課題について。

**答弁一（市長）** 認知症施策推進5か年計画は、国が認知症施策の方向性を定めたものである。本市



においても一般社団法人坂戸鶴ヶ島医師会と連携を図り、認知症初期集中支援チームの早期の設置に向けて取り組む。また、認知症の方やその家族、介護サービス事業所などの支援や相談業務等を行う認知症地域支援推進員については、各地域包括支援センターに早期に配置できるように準備を進めている。

**二** 認知症サポーターの養成、市民後見人養成講座の開催などに取り組んでいる。今後の課題は認知症の早期発見と早期支援であり、また、本人と家族を支える体制づくりや地域づくりも重要である。